

D5

③Int.Cl.  
F 24 h 1 / 00

③日本分類  
126 K 220.2  
69 O 1  
67 M 1

④日本特許庁

④実用新案出願公告

昭48-14837

## 実用新案公報

④公告 昭和48年(1973) 4月24日

(全2頁)

1

### ⑥風呂釜

- ⑥実 願 昭45-71741  
⑥出 願 昭45(1970)7月20日  
⑥考 案 者 玉田一実  
愛知県丹羽郡扶桑町大字高雄字畑  
尻56の3  
⑥出 願 人 リンナイ株式会社  
名古屋市中川区運河通2の53  
⑥代 理 人 弁理士 北村宇吉

### 図面の簡単な説明

図面は本考案実施の一例を示すもので、第1図は一部を截除した平面図、第2図はその分解した斜面図、第3図は第1図のIII-III線断面図である  
考案の詳細な説明

本考案は鉄系材料を使用して構造が比較的簡単で、溶融アルミニウムメッキ加工が有効に行われすぐれた性能を有する風呂釜に係るもので、軟鋼乃至はステンレス鋼の鉄系板材料を使用し、断面  
20 梯形でその長辺を開口2し内部を仕切板3で開口2に連通する水路4に形成せしめ外面に吸熱フィン5を取着けた扁平状の水管1の複数個を併設しその開口2を周縁に突脚7を有する共通の内板6の透孔に結着し、水管1の背面を共通の補強板8に結着したものに溶融アルミニウムメッキ(図示  
25 せず)を施し、内板6に対向してその突脚7内に上下に導水管10, 11を有する外板9を水密に嵌着して成る。溶融アルミニウム加工において内板6の突脚7内面は次に外板8との溶接加工を行  
30 うたアルミニウムメッキを省略するが好都合である。

而してこれをその前面を除いた3方の外面を周

2

繞する側板から成り、その上下縁から内方に受縁13を突設した外枠12に嵌合して使用する。

風呂釜において水管部を軟鋼はステンレス鋼の鉄系板材料で製作し、これに吸熱フィンを含めて溶融アルミニウムメッキを施すときは、熱伝導性が良好で、耐久性等に優れているが、その溶融アルミニウムメッキ加工において歪形を生じ易く、このため次で行う他の部材との水密的な溶接等の困難を生じ、その作業性を害う他水密性の問題を伴う等の欠点がある。

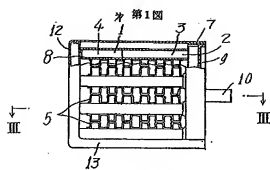
然るに本考案によるときは、外側に吸熱フィン5を取着けた一側辺にのみ開口を設けた断面梯形で平状の水管1の複数個をその開口側を内板6に結した形状の単純化とともに、これらを背面で共通の補強板8で1体1体結着補強したことにより次で行う溶融アルミニウムメッキ加工による歪を生ずることが極めて少なく、而も溶融アルミニウムメッキ加工による前記の効果を奏し、且つ加工後の水密な結合は内板6に対向する外板8との間に行われるのみで、水密な結合箇所が少ないのでその加工が容易であり、更に風呂釜に使用するにあたり補強板8を有するため、外枠12の過熱を防止することができる等の効果を有する。

### ⑥実用新案登録請求の範囲

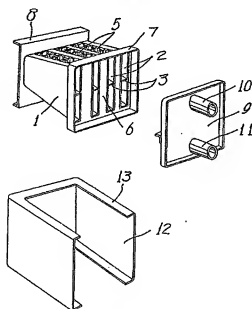
鉄系板材料を使用し、断面梯形でその長辺を開口2し内部を仕切板3で開口2に連通する水路4に形成せしめ外面に吸熱フィン5を取着けた扁平状の水管1の複数個を併設し、その開口2を周縁に突脚7を有する共通の内板6の透孔に結着し、水管1の背面を共通の補強板8に結着したものに溶融アルミニウムメッキを施し、内板6に対向してその突脚7内に上下に導水管10, 11を有する外板9を水密に嵌着して成る風呂釜。

(2)

実公 昭48-14887



第2図



第3図

